

< 虫たちのご馳走 >

桑原紀子

庭の金木犀の下に、簡単な「落ち葉入れ」を作っています。

秋にコブシやハクモクレンの落ち葉を入れておくと、住人たち(ミミズや土壌動物)がせっせと耕して、ふかふかの土に変身させてくれる大事な小屋です。

夏の間は落ち葉の代わりに、時々野菜屑を入れます。

ある日、うっかり完熟させ過ぎた梨を、小屋に放り込んでおきました。甘い香りがして、果汁が滲んでいます。

翌日、小屋から発酵した甘酸っぱい匂いが漂い始めました。どこかで嗅いだ匂い…。クヌギの樹液の匂いです。

その日の夕方、小屋の周りを蝶たちが沢山飛び交っています。樹液に群がるキマダラヒカゲという、黄色いまだら模様の蝶です。のぞいて見ると、盛んに梨の汁を吸ったり、飛び回っています。

この辺りでは見かけない黒っぽい蝶が混じっていました。図鑑で調べると、クロコノマチョウという珍しい蝶でした。

クヌギの樹液酒場に虫たちが集う、懐かしい光景を思い出しました。もしかすると…。

翌朝私は一番に小屋をのぞきに行きました。期待したとおり、カナブンとカブト虫の雌が来ていました。

夏の楽しみがひとつ増えたのです。

夜は懐中電灯を持ってそっと忍び寄り、パッと照らすとカブト虫の雄が梨にくっついていました。



不思議な事に、カブトの雌は朝でも夕方でも来るのに、雄は暗くなってからしか飛んできません。「昨日雌が3匹いたよ」と息子が言ったので、私以外にもものぞいているのが分かりました。

こうなると、スイカやブドウも追加され、思いがけない生き物も発見しました。

夜、懐中電灯の明かりに浮かび出たのは、頭の赤いズアカムカデです。甘い匂いにムカデも誘われたのでしょうか。カマキリやナメクジ、カタツムリもいるなあと思っていたら、ある日キマダラヒカゲがカマキリに捕まっていた。

た。カマキリの狙いは匂いに惹かれる虫だったので

す。カブト虫の雌はお腹がいっぱいになると、野菜屑や落ち葉の下に潜っていきます。小屋に住み着いて、時々食事に出てくるのかもしれませんが。

ある日、カブトの雌が一匹梨の傍で死んでいました。小屋の中で卵を産んだのでしょうか。

樹液のような甘酸っぱい匂いも薄れてきて、蝶の姿も少なくなっていきました。

夏が終わりに近づいたのだなと、思いました。